本愛

発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
FAX（052）461-4320
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

全ようぼくの実動をめざして
――９月は「にをいがけ強調の月」

本年も９月は「にをいがけ強調の月」と位置付けられている。月末の３日間は「ようぼくの実動日」とされ、「全教一斉にをいがけデー」が行われる。また、同じ期間内に各支部で「教会長路傍講演の日」も設けられる。

このにをいがけの旬に一人でも多くのようぼくの布教実動が求められる。

「一言のにをいがけは人の運命を変える」とお示しいただいている。いまだ道の教えを知らない人々に、をやの声を届け、心の向きを変えていただく。

勇んでにをいがけに励ませていただくことで、世界一れつの陽気ぐらしをお望みになる親神様、教祖にお喜びいただける。また「真実のをやの思いを伝えて世界をたすけることは、この教えを奉じる者の務め」でもある。

この大切な使命を、一人でも多くのようぼくが実践させていただくことができるよう努めたい。普段からにをいがけ・おたすけに励んでいる方は、その活動を継続しよう。また、周囲の方にも声を掛け、共ににをいがけに歩かせていただけるよう、声を掛けていきたい。

一握りの布教師だけで、世界中のたすけを必要としている人々に声を掛けることはできない。一れつの陽気ぐらしが実現されるためにも、全てのようぼくがお互いに呼びかけ合い、にをいがけ・おたすけに励みたい。さらに一人でも多くの仲間をお与えいただけるよう、努力させていただこう。

「この人ににをいを掛けんならんと思えば、道の辺で会うても掛けてくれ」（明治40年４月７日おさしづ）と仰せいただく。ようぼく一人ひとりが周囲に心を配り、たすけの手を差し伸べて、機を逃さぬ親身のおたすけを心掛けていきたい。

ご恩報じの実行

立教182年 活動目標

■初参拝の推進と新ようぼくの丹精
■報恩感謝のおつくしの徹底
■若者にご恩報じの心を伝えよう
◎「名称」本年までに三人の修養科生をご守護頂こう
◎報恩感謝別席団参の実施（11月24日）

おぢばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう！

第942期 修養科生大募集

《面接》☆日時…９月25日 午後１時
☆場所…本愛詰所

９月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

９月のこよみ

入社祭　１日　午前10時
祭典後、秋季霊祭、教会長連絡会
よふき会例会　２日　午前10時
月次祭　13日　午前10時
布教実修所　14日　午前９時30分
本愛こども会　15日　午前10時
婦人会例会　20日　午前10時
道の後継者の集い　22日　午前10時
教会長ようぼく錬成会　24日　午前10時30分
修養科志願者面接　25日　午後１時（於　本愛詰所）
本部月次祭　26日　午前９時
全教一斉にをいがけデー　28日～30日

少年会縦の伝道講習会（7月13日）　要旨

少年会本部委員長
飯降 力 先生

私たちの教会活動・信仰活動は、およそすべてが「人を育てる」ための活動と言うことができるでしょう。

陽気ぐらし世界を実現するためには、数多くのようぼくが必要です。教えを世に広めつつ、次の世代へとつないでいくこと、ようぼくを生み育てていくことが欠かせないのです。すでにこの教えを信仰する私たちにとって、そうした人を導き育て、共に歩むことは、大切な務めであります。

頂戴したコーヒー豆に

ところが、人を育てるのは非常に難しいものです。難しく感じる理由の一つは、時間がかかることでしょう。

一昨年12月、少年会の定例会議に真柱様がお出ましくだされた時、一同にコーヒー豆を下さいました。この豆は、その前月に二代真柱様の50年祭が勤められた際、ブラジル伝道庁からお供えされたものでした。

昭和26年、二代真柱様がブラジル伝道庁の設立奉告祭に赴かれたとき、コーヒーの木を植樹されました。私たちが頂戴した豆は、その木の「孫」に当たる木から採れたものだったそうです。そして、その木について、ちょうど天理時報に記事が載っておりました。

それによりますと、お手植えの木から最初に採れた豆を、当時伝道庁長を勤められていた大竹忠治郎先生が二代真柱様に届けられたそうです。そのとき二代真柱様は「コーヒの樹には、樹齢はあるだろう。しかし、その果実よりまた子樹が成人し、子樹より孫樹が生れる等々、考えると、手植コーヒは修理次第によって、末代かけて繁ることであろう。ここに末代かけてのよろこびも、修理のたのしみも生れてくる」と仰せになったのであります。

このお言葉は、この木を育てることのみならず、縦の伝道、少年会活動にも通じるものだと感じます。楽しませながら育てるその先には、いずれようぼくとなって私たちの信仰を受け継いでくれ、そしてその信仰をまた次の世代へとつなげてもらう。そうして末代かけてつながっていく姿を楽しみに、私たちはいまの子供たちを育てさせていただくわけです。

そうした喜びを感じながら育成の御用を務めたいものだなと、頂戴したコーヒー豆を通して感じさせていただきました。

思い通りいかないのが子供

もう一つ、育成の難しさを感じることとして、子供たちはなかなか親の思い通りにはならない、ということがあります。

私自身も、6人の子供たちを育てる中でそう感じたことがあります。私には娘が5人いるのですが、なぜか皆野球が好きで、しかも、私が応援するチームのライバル球団を応援している。どうにも理解ができないのですが、やはり親の思い通りにはいかないのが子供であります。

けれども、自分をよく振り返ってみますと、私が贔屓にしているチームの中継を見るたびに「ここがだめだ」とか「あの選手がもっとこうしていれば」と、そんなことばかり言っているものですから、好きにならなかったのも当然かもしれません。

これはお道の中でも同じようなことが言えるのではないでしょうか。教会活動の中で誰かの批判をしたり、マイナスの言葉を言ったりしてはいないだろうか。お道のことを好きになってもらおうとするならば、そうした言葉ではなく、プラスの話、明るい言葉を聞かせてやることが大切だと思うのです。思い通りではなく、心通りの守護をいただけるように、こちらが心を尽くすことが大切だと感じます。

自らの襟を正して

少年会の活動は、ご存知のように0歳から15歳まで

が対象です。年齢によって言葉の掛け方、接し方は変わるでしょうが、どんな年齢層を育てるにも、共通した柱があります。それは、私たち育成者の言動が子供たちの手本になる、ということです。

行動を伴わない言葉は、説得力に欠けます。そう考えますと、教えを説いて聞かせる自分たち自身は、どれだけ陽気ぐらしを実践できているでしょうか。私自身、自らの襟を正さないといけない、自分自身を見つめ直して通ることが大事だなと感じます。

教祖は、筆を執って文字に書き記して、この教えを伝えてくださいました。また、お口を通しても教えを説かれ、さらには、御教えに歌と手振りを付けて、懇切丁寧に伝え残してくださいました。

しかし、これらの御教えがありありと私たちに迫ってくるのは、あるいは、教えを実行して通ることが大切だと思えるのは、教祖ご自身がその教えを実行してお通りくださったからなのであります。手本雛形をお示しくだされたからこそ、私たちはこの教えが間違いないと確信するのです。

教祖のをやとしてのお姿こそ、私たちが子供たちを導く上での教科書であり、手本なのです。

行事を通してどう接するか

現在、少年会では年間の活動方針として「日々に陽気ぐらしを実践し、その喜びを子供たちに伝えよう」と掲げています。

これはまさに育成する側に対してのメッセージであります。ところが、ややもすると、その逆の姿を見せているということが、私自身も多々あります。

喜べないような状況の中で、いかに「たんのう」の心で通るか。大人でもなかなか難しいことではありますが、だからこそ、日頃からそのことを意識して実践することが大切なのです。

少年会活動は、行事をすることだけが目的ではありません。その行事を通して子供たちとどう接するかが重要です。おとまり会、総会、こどもおぢばがえりの引率、何をするにしても、子供たちに喜びの言葉を聞かせる、自分自身が喜び勇んでつとめている姿を見せる。それによって、「行事」は「育成活動」になるのではないかと思うのです。

こどもおぢばがえりも、その目的は単に子供たちを楽しませることだけにあるのではなく、おぢばに帰る喜びを伝えることが目的であり、私たちは将来に芽生える喜びの種を子供たちにお与えいただきたいと、子供たちを親里へ連れ帰るのであります。

夏のおぢばに帰る意義

昨年のこどもおぢばがえりでは期間中に台風が発生し、帰参できない団体が多数ありました。その一つ、福岡県の教会の会長さんから後日、少年会本部にお手紙を頂きました。

封筒を開けてみますと、呼びかけに使われたチラシが入っており、こう書き添えてありました。

「前略　いつもお世話になっております。今年のこどもおぢばがえりですが、台風の関係でフェリーが欠航となり、中止させていただきました。みんなの思いだけでも届けたいと考え、予定していた日程、参加者名簿、御供えを送らせていただきます。よろしくお願い申し上げます」

子供たちをおぢばに連れていくということは、単に楽しませたいというだけではありません。をやの膝元へ子供たちをお連れして、親神様・教祖にご覧いただきたい、という思いがあればこそ、この会長さんはこれらを届けてくださったんだと思うのです。あらためて、こどもおぢばがえりは、私たちの信仰信念によって支えられ、成り立っているのだと感じます。

私たちには、おぢばにつながることでたすけていただける、という信念があります。その信念があるからこそ、子供たちに声をかけ、また、受け入れ側のスタッフも喜んで帰ってもらえるようにと、思いを込めて務められるのであります。

子供たちはこの道の将来を担う、大切な宝物であります。その子供たちに喜びの心を映せるように、私たち大人が皆で、こどもおぢばがえりをはじめ、さまざまな場所で真実を込めて丹精させていただきたいと思います。（文責・広報部）

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第57回】

我が心を人の心の下に置き 胸の掃除を日々実践しよう

八つのほこりの最後に登場するのが「こうまん」（高慢）です。高慢といえば、まず威張るとか見下げるといった態度が思い浮かびます。しかし力の無い人が威張ってみても、たちまち鼻をヘシ折られて笑いものになるのがオチでしょう。そう考えると「こうまん」のほこりは、財産がある、頭が良い、立場がある、などと言われるような人が積みやすいほこりで、しかも気がつきにくいものであるということができます。

教えによれば、「こうまん」とは力も無いのにうぬぼれ、高ぶり、富や地位をかさに着て人を見下し、踏みつけ、自分は偉い、賢いと思って人を侮り、人の欠点を探す。また知らぬことを知った顔して通す心はほこりである、と説き諭されています。

また、おふでさきには、

高山にくらしているもたにそこに　くらしているもをなしたまひい

（十三―45）

と仰せになった後、人間はみな親神の「かしもの」であり高低はない。それを何か高低があると思うことが、争いの元になると諭されています。戦争から身辺の争いまで、相手を蔑む気持ちから発していると言っていいかもしれません。

うぬぼれと自信は紙一重のところがあります。多少のうぬぼれはむしろ可愛いところがあるし、逆に、自信の無さ過ぎる人は歯がゆくもあり、気の毒にさえ感じられます。しかしうぬぼれは度が過ぎると嫌味になり、鼻につきます。まして思い上がって出過ぎたことを言ったりとなると反発したくもなるでしょう。

■独善の心はないか

金があるから、あるいは地位や立場があるからといって人を見下す、人を人とも思わないような言動はもちろんほこりであり、力はあっても徳はないというべきでしょう。そうだとすると、自分はそれほど金もないし、地位も力もないから、あまり「こうまん」とは関係ないと思うかもしれませんが、決してそうではありません。

人の欠点を探す、あら探しをする、人の失敗を見て笑ったり欠点を並べ立てて馬鹿にする心。これも「こうまん」のほこりだと教えられています。こうした心使いに多少なりとも覚えがあるなら、「こうまん」に関係ないどころか、これからは人の良い所を探し、ほめることを積極的に心がけなければなりません。

またお道を信仰し、教祖のひながたを慕い求めている私たち自身の中に、世間に対する独善の心が芽生えてはいないか、という点を反省する心も忘れてはならないでしょう。「人に教えてやろう、導いてやろう」という心も「こうまん」のほこりであることを覚えておきたいものです。

◇

さて、天理教の信仰は拝み祈祷の信心ではありません。人間の願い通りの守護ではなく、心通りの守護をくださるのが親神様ですから、この道は日々の心使いや生き方・暮らし方を改め、転換することによって運命を切り換える教えであります。そのために教祖は「八つのほこり」を教えてくださいました。これは人に説くためではなく、我が胸の掃除を進めるために示された教えであります。

このみちハどんな事やとをもうかな　せかい一れつむねのそふぢや

（十六―57）

教えを「絵に描いた餅」に終わらせることなく、我が心の反省と成人に活用して、家庭と社会が円満に治まっていくための拠り所となるように、日々実践して歩んでいきましょう。

真夏の10日間 きらめいて

「立教182年こどもおぢばがえり」閉幕

今年は台風6号が近畿地方に接近したため、雨で始まったこどもおぢばがえり。台風通過後は、連日30度を超える真夏日が続いたが、子供たちは暑さもいとわず、爽やかな笑顔を咲かせた。

本愛からも大勢の人々が帰参し、各行事会場で元気いっぱいに夏のおぢばを楽しむ姿が見られた。

詰所では恒例の模擬店を今年も実施。暑さが和らいでくる夕刻より大勢の少年会員や育成会員が訪れ、連日大盛況。焼き鳥や唐揚げ、ジュース、かき氷などを頬張りながら、楽しい夜のひと時を過ごした。

本愛団では期間中、1人でも多くの人がおぢばに帰れるよう、毎日帰参の車両を運行した。また、多くの人が詰所の食堂や模擬店などで、帰参者受け入れのひのきしんをつとめた。

本愛鼓笛バンド 4年連続の金賞

本愛鼓笛バンドは7月28日のおやさとパレードに鼓笛単独隊として出演。観覧者に素晴らしい演奏を披露した。また29日には鼓笛オンパレードに出演し、1年間の練習の成果を存分に発揮。見事4年連続の金賞を受賞した。

今年は「星に願いを」を演奏し、流れるような美しいメロディーに、観客席からは大きな拍手が送られた。また本愛リトルバンドは銅賞だった。

真夏の太陽が照り付ける中、元気いっぱいに演奏する鼓笛隊員

「道の後継者の集い2019」開催間近

9月22日、大教会では「道の後継者の集い」が開催される。

昨年、初めて開催されたこの行事は、昨年3月まで教会本部で行われた後継者講習会の「事後の丹精の場」として始まったもの。

今年は「明るく、楽しく、生きようぜ」とのテーマのもと、同講習会で感じたことや心に治めたことなどを、本愛につながるようぼく・信者同士があらためて語り合い、大教会の次代を担う人材として、さらなる成人を目指す。

対象者は、大教会につながる16歳から40歳の男女。例年行われている青年会総会と、女子青年の総会を兼ねて実施される。

当日は、記念講演として、人材育成コンサルタントの吉川孝之氏（教会本部ようぼく）が登壇する予定。

記念講演の後、受講者はグループに分かれ、昼食を兼ねた「ランチミーティング」を行い、明るく楽しい生き方をテーマに互いの信仰などについて話し合いをするほか、アトラクションを通して、親交を深める。

現在、青年会や女子青年らを中心に、積極的な参加呼びかけを行っている。

ハーフタイム

テレビに映る素敵な笑顔が目に飛び込んできた。昨年、ゴルフのプロテストに合格し、今年8月の全英オープンに初参戦すると、日本人として42年ぶりの優勝を果たした渋野日向子選手だ。弱冠20歳、私の娘と同じ年の彼女の笑顔に日本だけでなく、世界中の人が魅了され、「スマイルシンデレラ」と称された。何とも嫌みの無い笑顔だ▼彼女の武器は、いついかなる時も引きずらず、笑顔で前向きにプレーできることだ。ボギーを出した次にはパーで立て直すといった試合運びには目を見張る物があった。ゴルフを知らない母でさえ「ああ惜しい。もう少し近ければ」と見入るくらいだ▼私たちもいつも前向きな心と笑顔でいれば、陽気ぐらしに少しでも近づけるのではなかろうか。

教人登録者

（令和元年６月29日付）

本良心　長良　英男　以上１名

６月の中席者数

（７月20日提出分まで）

本心６―本昭和１　以上７名

７月の中席者数

（８月20日提出分まで）

本道橋２―　以上２名

７月の初席者

本愛慶心　李　稚遠　以上１名

本穂分教会二代会長 桑子誠之霊の十年祭
本穂分教会二代会長夫人 桑子和子之霊の一年祭

本穂分教会では８月11日午前10時30分より、二代会長・桑子誠之霊の十年祭、並びに二代会長夫人・桑子和子之霊の一年祭が、世話人・安藤正二郎役員を祭主として同分教会で行われた。

お詫びと訂正

８月号６頁、６月の初席者、「本心　富田優人」となっておりましたが、「**本心　冨田優人**」の誤りでした。ここに、お詫びして訂正いたします。

教務部

大教会日誌

令和元年７月25日～令和元年８月24日

７月

25日　常任役員会議

26日　本部月次祭

立教182年こどもおぢばがえり開幕

（８月４日まで）

８月

１日　入社祭

祭　主・大教会長　扈者・出口順英、山神茂彦

指図方・板山公司　賛者・吉田清和、中島裕信

◇おたすけ講話―加藤成幸

◇教会長連絡会

２日　よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

12日　常任役員会議

13日　月次祭

祭　主・大教会長　扈者・大倉八郎、桑子　保

指図方・出口道男　賛者・坂倉敏男、山本正太郎

◇祭典講話―門田　茂

◇大教会長挨拶

14日　布教実修所

おつとめ、布教実動、教理講座、ふり返り

16日　むつみ会例会

おつとめ、まなび、ねりあい

17日　こども食堂ＭＯＧＵ（参加者39人）

18日　青年会・女子青年・学生会合同例会

於：三重県八風キャンプ場（参加者34人）

こはる会例会

おつとめ、ひのきしん

20日　婦人会例会

おつとめ・十二下りてをどり、ねりあい

22日　おはなし会

24日　教会長ようぼく錬成会

おつとめ、にをいがけ